

2. 火山の概況

(平成 17 年 3 月 3 日 ～ 平成 17 年 3 月 9 日)

雌阿寒岳、十勝岳及び樽前山では、噴煙の状況に変化はなく、火口の高温状態が続いていたと推定される。

浅間山では、噴煙活動が継続し、火映が時々観測された。火山活動度レベル（以下レベルと記載）は 3。

三宅島では噴煙活動が継続した。

阿蘇山では熱的な活動のやや活発な状態が続いた。レベルは 2。

霧島山では御鉢の噴気活動がやや活発であった。御鉢のレベルは 2、新燃岳のレベルは 1。

口永良部島では地震がやや多く発生した。レベルは 2。

諏訪之瀬島では噴火が発生した。レベルは 3。

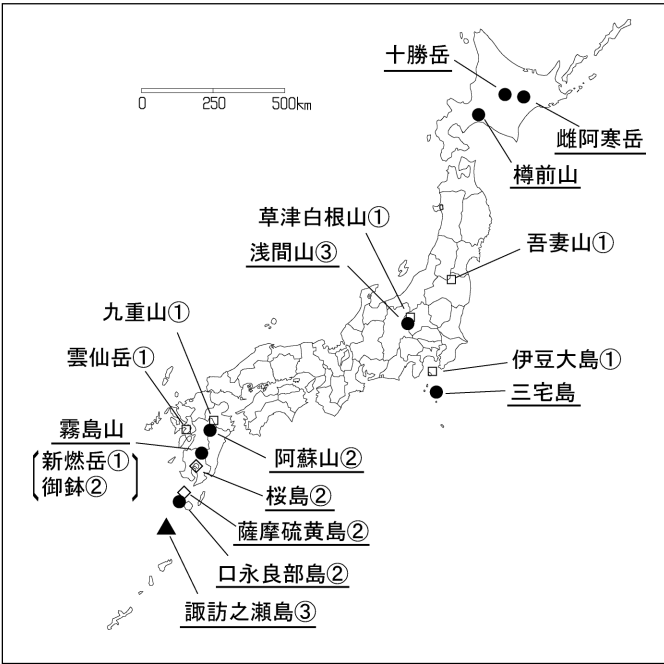


図 1 各火山の今期間の火山活動度レベル及び記事を掲載した火山（火山名に下線）

号	対象期間	雌阿寒岳	十勝岳	樽前山	浅間山	三宅島	阿蘇山	霧島山	桜島	薩摩硫黄島	口永良部島	諏訪之瀬島
10	3/3-3/9	●	●	●	●	●	●	◇	◇	●	▲	▲
9	2/24-3/2	●	●	●	●	●	●	◇	◇	●	▲	▲
8	2/17-2/23	●	●	●	●	●	●	◇	◇	●	▲	▲
7	2/10-2/16	●	●	●	●	●	●	◇	◇	●	◇	◇
6	2/3-2/9	●	●	●	●	●	●	◇	◇	●	◆	◆

号	吾妻山	草津白根山	浅間山	伊豆大島	九重山	阿蘇山	雲仙岳	霧島山（新燃岳）	霧島山（御鉢）	桜島	薩摩硫黄島	口永良部島	諏訪之瀬島
10	①	①	③	①	①	②	①	①	②	②	②	②	③
9	①	①	③	①	①	②	①	①	②	②	②	②	③
8	①	①	③	①	①	②	①	①	②	②	②	②	③
7	①	①	③	①	①	②	①	①	②	②	②	②	③
6	①	①	③	①	①	②	①	①	②	②	②	②	③

表 1 最近 1 か月に記事を掲載した火山（左）及び各火山のレベル

注 1 記号の意味

- ▲：噴火した火山 ●：活動が活発な状態にあるか、もしくは観測データ等に変化があった火山
- ◆：前期間まで▲や●で掲載し、その後の状況等を掲載した火山 ◇：その他記事を掲載した火山
- ：記事を掲載していないレベル対象火山 ①②等の丸付き数字：火山活動度レベル

注 2 記事は、▲、●及び◆（注 1 参照）に該当する火山及びレベル 2 以上の火山について掲載する。その他の火山については、特記事項のある場合に掲載する。

注 3 本文の火山名の後ろの[噴煙・噴気・地震・微動・空振・地殻変動・熱・火山ガス等]は、変化があった観測データ項目を示す。

● 雌阿寒岳 [熱]

ポンマチネシリ 96-1 火口の噴煙の状況に変化はなく、高温の状態が続いていたと推定される。

● 十勝岳 [噴煙・熱]

62-2 火口の噴煙活動は活発な状態が続いており、高温の状態が続いていたと推定される。遠望カメラによる噴煙の高さは火口縁上おおむね 200m で推移した。

● 樽前山 [熱]

A火口およびB噴気孔群の噴煙の状況に変化はなく、高温の状態が続いていたと推定される。

● 浅間山 [噴煙・火映・地震・微動] レベル3 (山頂火口で小～中噴火の可能性)

今期間、噴火は観測されなかった。

白色噴煙は山頂火口より連続して噴出しており、最高で火口縁上約300mまで上がった。また、微弱な火映が5～9日に山麓の高感度カメラで観測された。

火山性地震は1日当たり51～65回、火山性微動は1～4回観測された。

8日に上空から行った観測¹⁾では、噴煙のため火口内の状況は確認できなかった。火口周辺に火山灰など新たな噴出物は確認されなかった。

1) 長野県消防防災ヘリコプターより、気象庁と東京大学地震研究所が共同で実施。

● 三宅島 [噴煙・火山ガス]

白色噴煙は山頂火口より連続して噴出しており、最高で火口縁上約500mまで上がった。今期間は二酸化硫黄放出量の観測は行わなかったが、三宅村の火山ガス濃度観測によると、山麓ではたびたび高濃度の二酸化硫黄が観測されており、火口からの多量の火山ガス放出が継続していると推定される。

● 阿蘇山 [熱・土砂噴出・微動・地震] レベル2 (やや活発な火山活動)

8日に阿蘇山測候所が行った現地観測によると、中岳第一火口の状況は、湯だまりの色は灰色、量は約3割で前期間(約4割)より減少した。湯だまりの表面温度は72℃と依然高い状態であった(2月23日の観測では73℃)。湯だまりの中央部付近で高さ約10m、その他数箇所では高さ1～3mの土砂噴出が観測された(前期間の最高は中央部付近で観測された高さ約5m)。

噴煙は白色で噴煙の高さの最高は火口縁上約400m(前期間500m)であった。

孤立型微動の発生回数は395回で、前期間(265回)より増加した。火山性微動の発生はなかった(前期間もなし)。火山性地震は1日当たり22～48回発生し、消長はあるもののやや多い状態であった。

地殻変動等その他の観測データには特段の変化はなかった。

● 霧島山 [噴気] 御鉢：レベル2 (やや活発な火山活動)・新燃岳：レベル1 (静穏な火山活動)

御鉢火口の噴気活動はやや活発で、4～9日に時々噴気が監視カメラで観測され、高さの最高は火口縁上約200mであった。

◇ 桜島 レベル2 (比較的静穏な噴火活動)

期間中、噴火はなかった(前期間もなし)。噴煙活動も低調で、鹿児島地方気象台(南岳の西南西約11km)で降灰は観測されなかった(前期間もなし)。

◇ 薩摩硫黄島 レベル2 (やや活発な火山活動)

地震活動、噴煙活動等の観測データには特段の変化はなかった。

● 口永良部島 [地震・微動] レベル2 (やや活発な火山活動) <期間外の記述を含む>

火山性地震は、日回数に増減があるものの今期間もやや多い状態が続き、期間中の回数は37回であった(前期間は52回)。火山性微動は、継続時間の短いものが時々発生し、期間中の回数は2回であった(前期間は7回)。監視カメラ(新岳の北西約4kmに設置)による観測では、新岳及び古岳の噴気活動に変化はなかった。

3月2日(期間外)に海上自衛隊鹿屋航空基地救難飛行隊の協力で上空から行った観測によると、新岳火口底及び周辺部では、今年の同時期と比べ、温度の高い領域がやや広がっており、また、温度も高くなっていることが確認された。

▲ 諏訪之瀬島 [噴火・微動] レベル3 (小規模な噴火が発生)

6～9日に噴火が発生した。監視カメラによる観測では、期間中の噴煙の高さの最高は8～9日に

観測された火口縁上約 1,000m（灰白色）であった。十島村役場諏訪之瀬島出張所によると、6～9日に火山灰を含む噴煙が火口縁上約 800～1,000mまで上がっているのが確認された。期間中、集落（御岳の南南西約 4 km）に降灰はなかった。

火山性微動が 6 日夕方から断続的に観測され、8 日夕方以降は期間の終わりまで連続して観測された。

表 2 火山情報発表状況

火 山 名	情報の種類及び号数	発表日時	概 要
浅 間 山	火山観測情報第 65 号	3 日 16:00	前日及び当日 00 時～15 時の活動状況（噴火はなし、噴煙・火映・鳴動・地震・微動・地殻変動の状況及び上空の風の予想）。レベルは 3。
	↓（1 日 1 回発表） 火山観測情報第 71 号	↓ 9 日 16:00	
三 宅 島	火山観測情報第 121 号	3 日 09:30	前日 15 時～当日 09 時もしくは当日 09～15 時の活動状況、及び上空の予想。
	↓（1 日 2 回発表） 火山観測情報第 134 号	↓ 9 日 16:30	
阿 蘇 山	火山観測情報第 9 号	4 日 11:00	火山活動は引き続きやや活発（小規模な土砂噴出発生、地震やや多い）。レベルは 2。
口永良部島	火山観測情報第 11 号	4 日 14:00	やや活発な火山活動継続。レベルは 2。